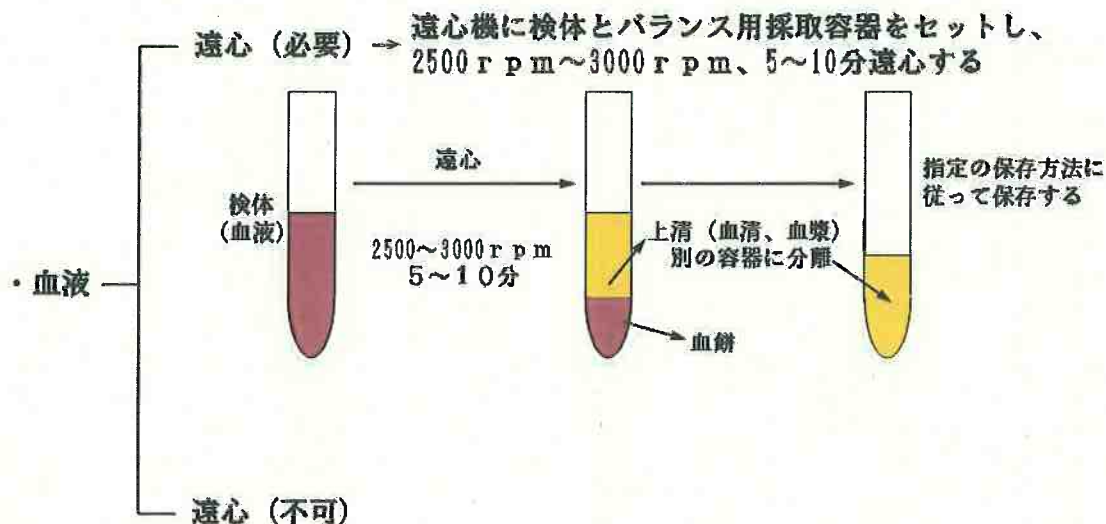


## 検体の保存法（1）

平日の夜間・土・日・祝日等で検体を検査部に提出できない場合は、検体採取後、下記を参考に検体保存し、受付時間に提出下さい。

尚、抗凝固剤入りの採取容器は採血後直ちに約5～10回転倒混和して下さい。ブルーキャップやピンクキャップの採取容器は採血直後5回以上転倒混和して、30分間放置後遠心して下さい。



- ・尿
  - ・リコール
  - ・その他の検体
- 指定の保存方法に従って保存する

### 血液検査

項目	検体種	採取容器	採血後転倒混和	遠心	分離	保存温度
血球計数検査 (白血球分類)	血液	EDTA-2K (紫検血)	必要	不可	不可	室温
備考: 採血後4時間以内に測定						

※以下の検査項目（採取容器）は検体保存条件が異なるため、指定通りお願いします

項目	検体種	採取容器	採血後転倒混和	遠心	分離	保存温度
凝固・線溶検査	血液	3.13%クエン酸ナトリウム (黒凝固)	必要	必要	上清を分離	冷凍保存 (-18℃)
備考: 採血後2時間以内に分離						
血液細胞マーカー検査	血液・骨髄血・リンパ節・胸腹水・肺胞洗浄液	Λ <sup>+</sup> リンナトリウム (緑Λ <sup>+</sup> リ)	必要	不可	不可	
尿中FDP	尿	抗プラスミン剤 (黄FDP)	必要	必要	不要	冷凍保存 (-18℃)
備考: 血液混入時は2500rpm/10分遠心後上清を冷凍 (-18℃)						
尿中微量アルブミン	尿	スピッツ				冷蔵庫 (4℃)

## 検体の保存法 (2)

### 一般検査

項目	検体種	採取容器	採血後転倒混和	遠心	分離	保存温度
尿定性・尿沈渣	尿	スピッツ	不要			保存不可

### 生化学検査

項目	検体種	採取容器	採血後転倒混和	遠心	分離	保存温度
一般生化学	血液	分離剤入 (分離剤入)	必要	必要	上清を分離	冷凍保存 (-18℃)
生化学 (緊急)	血液	^^ リンナトリウム (緑^^ リ)	必要			
備考: 解糖有り。直ちに分析						

※以下の検査項目 (採取容器) は検体保存条件が異なるため、指定通りお願いします

項目	検体種	採取容器	採血後転倒混和	遠心	分離	保存温度
血糖 (NaF)	血液	フッ化ナトリウム (灰白糖用)	必要	不可	不可	冷蔵庫 (4℃)
アンモニア	血液	^^ リンナトリウム (緑^^ リ)	必要	不可	不可	氷水中
備考: 直ちに氷冷。速やかに測定						
血液ガス	血液	血ガス用注射器	キリモミ混和	不可	不可	不可
備考: 直ちに氷冷。速やかに測定						
尿	尿	スピッツ				冷蔵庫 (4℃)
備考: 血液混入時は2500rpm/10分遠心後上清を冷蔵 (4℃)						
髄液・その他の検体	髄液・その他	スピッツ				冷凍保存 (-18℃)
備考: 血液混入時は2500rpm/10分遠心後上清を冷凍 (-18℃)						
ICG	血液	分離剤入 (分離剤入)	必要			保存不可
備考: ICG注射後の採取容器は遮光						
LD7494	血液	分離剤入 (分離剤入)	必要	必要	上清を分離	冷凍保存 (-40℃)

### 免疫血清検査

項目	検体種	採取容器	採血後転倒混和	遠心	分離	保存温度
免疫・血清一般	血液	分離剤入 (分離剤入)	必要	必要	上清を分離	冷蔵庫 (4℃)

※以下の検査項目 (採取容器) は検体保存条件が異なるため、指定通りお願いします

項目	検体種	採取容器	採血後転倒混和	遠心	分離	保存温度
補体価 (血清)	血液	分離剤入 (分離剤入)	必要	必要	上清を分離	冷凍保存 (-20~-40℃)
補体価 (血漿)	血液	EDTA-2K (紫検血)	必要	必要	上清を分離	冷凍保存 (-20~-40℃)
抗カルジオリピン抗体	血液	分離剤入 (分離剤入)	必要	必要	上清を分離	冷凍保存 (-20~-40℃)
インスリン (IRI)	血液	分離剤入 (分離剤入)	必要	必要	上清を分離	冷凍保存 (-20~-40℃)
Intact-PTH	血液	EDTA-2Na	必要	必要	上清を分離	冷凍保存 (-20~-40℃)
尿中β2マイクログロブリン	尿	スピッツ				冷凍保存 (-20~-40℃)
備考: 血液混入時は2500rpm/10分遠心後上清を冷凍 (-20~-40℃)						

### 遺伝子検査

項目	検体種	採取容器	採血後転倒混和	遠心	分離	保存温度
遺伝子検査 全項目について	末梢血・骨髄血	EDTA採血管	必要 (要混和)	不可	不可	保存不可
	リンパ節・胸水 腹水・脾液・胆汁	滅菌試験管	不要	不可	不可	保存不可
	組織	検体が取出し易い滅菌容器で高保湿性	不要	不可	不可	保存不可

検体の保存法に疑問がある場合は、時間内は各検査室へ直接連絡下さい。又、時間外は時間外緊急検査担当者へご相談下さい。

# 検体の保存法 (3)

## 微生物検査

### ◆一般細菌、抗酸菌 (PCR) 培養検査

	材料	採取容器	保存法および保存期間
呼吸器	喀出痰	滅菌痰コップ (痰コブ)	冷蔵庫 (4℃) 2日
	咽頭・鼻腔	滅菌綿棒 (綿棒)	冷蔵庫 (4℃) 2日
	気管支鏡下採痰	滅菌試験管 (試験管)	冷蔵庫 (4℃) 2日
尿路	中間尿	滅菌試験管 (試験管)	冷蔵庫 (4℃) 2日
消化器	便	滅菌綿棒 (綿棒)	冷蔵庫 (4℃) 2日
	胆汁	滅菌試験管 (試験管)	冷蔵庫 (4℃) 2日
	胃壁	ヘリコ専用容器 (ヘリコ)	冷蔵庫 (4℃) 2日
血液・穿刺液	血液	血液培養ボトル (血培養)	孵卵器 (35~37℃) 休日、夜間は時間外輸血検査室の孵卵器で培養
	髄液	滅菌試験管 (試験管)	冷蔵庫 (4℃) 2日 髄膜炎菌を強く疑う場合、孵卵器 (35~37℃)
	胸水、腹水、関節液など	滅菌試験管 (試験管)	冷蔵庫 (4℃) 2日
膿、分泌液	眼、耳、創部など	滅菌綿棒 (綿棒)	冷蔵庫 (4℃) 2日
臓器、組織	リンパ節、皮膚など	滅菌試験管 (試験管)	冷蔵庫 (4℃) 2日
カテ先	カテ先、IVH、人工弁	滅菌試験管 (試験管)	冷蔵庫 (4℃) 2日

※血液中の抗酸菌検査 (PCRも含む) は、EDTA入り採血管で採取し、冷蔵庫保存2日程度

### ◆微生物各種抗原検査

	検査項目	材料	採取容器	保存法および保存期間
細菌性	大腸菌O-157	便	嫌気ポーター (嫌気ポ)	冷蔵庫 (4℃) 7日
	大腸菌ベロ毒素	便	嫌気ポーター (嫌気ポ)	冷蔵庫 (4℃) 7日
	C. difficile	便	嫌気ポーター (嫌気ポ)	冷蔵庫 (4℃) 3日
	A群溶連菌	咽頭ぬぐい液	滅菌綿棒 (綿棒)	冷蔵庫 (4℃) 3日
	髄膜炎菌	髄液	滅菌試験管 (試験管)	冷蔵庫 (4℃) 2日 凍結 (-18℃) 10日
	レジオネラ	尿	滅菌試験管 (試験管)	冷蔵庫 (4℃) 14日
	肺炎球菌	尿	滅菌試験管 (試験管)	冷蔵庫 (4℃) 14日
	淋菌	尿 分泌物	滅菌試験管 (試験管) 滅菌綿棒 (綿棒)	冷蔵庫 (4℃) 5日 冷蔵庫 (4℃) 5日
真菌性	β-D-グルカン	血液	E・Gチューブ (E・G管)	全血: 冷蔵庫1日 遠心分離後: 冷蔵庫3日 血漿: 凍結 (-80℃) 30日
	カンジダ	血液	分離剤入り (分離剤)	全血: 冷蔵庫2日 血清: 凍結 (-18℃) 30日
	アスペルギルス	血液	分離剤入り (分離剤)	全血: 冷蔵庫2日 血清: 凍結 (-18℃) 30日
	クリプトコッカス	血液	分離剤入り (分離剤)	全血: 冷蔵庫2日 血清: 凍結 (-18℃) 30日
ウイルス性	ロタ・アデノ	便	滅菌綿棒 (綿棒)	冷蔵庫 (4℃) 7日
	インフルエンザ	鼻咽腔	滅菌綿棒 (綿棒)	冷蔵庫 (4℃) 1日
	RSウイルス	鼻咽腔	滅菌綿棒 (綿棒)	冷蔵庫 (4℃) 3日
その他	赤痢アメーバ	便	嫌気ポーター (嫌気ポ)	保存不可
	クラミジア・トラコマチス	尿	滅菌試験管 (試験管)	冷蔵庫 (4℃) 5日
		分泌物	滅菌綿棒 (綿棒)	冷蔵庫 (4℃) 5日

※β-D-グルカンの検体を血漿分離する際は、エンドトキシンフリーのチップと試験管 (E・Gチューブ) を用いる